

下高井戸 旭鮨 弘本店

旭鮨總本店株式会社 東京都世田谷区赤堤4-40-8 NO.236
TEL03-3322-3334 FAX03-3327-3333 E-mail:a-honbu@mvi.biglobe.ne.jp

相変わらず続々不況の中にも拘らず、懸命の努力の成果は徐々に表れてきている。しかし「お客様に喜んで頂くまでにはまだまだの感、更に努力と工夫が必要だ」と評価されている。「お客様に喜んで頂く手段方法は様々あるだろうが、季節感を強調して、お客様に季節を楽しんで頂くことを通して喜んで頂くのが近道ではないだろうか」と、年度初めの社長の提案で模索を続けてきたが、その成果を見る前に、夏という季節を迎えるに至ったのだ。

私達の姿勢

「心ときめく料理 味わい深く、彩りも鮮やかで楽しく、人の心を打つような料理を目指す。

「心が光る清潔な店 清掃は己が心を磨くこと。隅から隅まで光り輝く店造りを目指す。

「心暖まるサービス みんなの心が豊かなつながりで、互いに喜び合えるサービスを目指す。



一人前の鮨もガラスの器で涼しさを演出(下高井戸本店「特館」)

夏を楽しんで頂くために

暑い夏には、サッパリとした白身の魚が好まれ、ハモ、カレイ、コチ、イサキ、スズキ、カンパチなどが挙げられるが、中でも「これがなければ京都に夏は来ない」と言われるハモは、京料理の代表的食材になっている。旭鮨で使うハモは、冴えた味覚を持つお客様にも喜んで頂けるよう、甘みの強い熊本県は天草産に拘って揃えようとしている。また淡白過ぎるのを補つてのキスの昆布〆は刺身の絶品として多くの人から愛されている。

貝類では、千葉房州産のアワビ、サザエが柔らかく甘みが濃いのでござれに拘り、近く解禁になる北海道のウニやホタテも逸品として準備している。

その夏に向けて、お客様に夏を楽しんで頂く旬の食材にはどんなものがあるか、喜ばれそうな調理方と共に幾つかの事例を掲げてみる。これらを参考にして、更にみんなで工夫し、よりよいものを生み出して欲しいと期待するものである。

総ての従業員は、これらのこと

をよく熟知して、お客様が納得いくま

で丁寧に説明することがおもてなしの最も大切な中心である。みんなで旭鮨の経営に参加するということは、

よりもなおさず、一人ひとりがこ

ういうのが、夏という季節を前に

しての旭鮨の態勢である。

総ての従業員は、これらのこと

をよく熟知して、お客様が納得いくま